

サロベツの湿原と農業を満喫する1日

体験学習等のイベント内容

・北海道の北部に位置するサロベツ湿原では、地域の多様な主体が協力して湿原と農業の共生を目指す「自然再生事業」が行われています。

・この取組をより多くの人に知っていただくため、毎年秋に「サロベツ・エコモーDay」を開催し、パネル展やクイズラリー、牧草ロール展示、はしご車による湿原展望、地元小学生による自然散策路ガイドなど、当日は様々なイベントを実施しています。

・8回目の開催となった2019年は、地域の内外から470名が参加し、湿原の保全と酪農業の振興を両立させる取組への理解が深められています。



取組主体の紹介

取組主体である「サロベツ・エコモーDay実行委員会」は、サロベツの湿原と農地を保全するため個人・団体による有志で組織された「エコモー☆サポーター」が中心となっています。

エコモーDayの開催には、豊富町、豊富町観光協会、JA北宗谷、豊富牛乳公社、豊富高校など、地域の多くの方々の協力をいただいています。

イベントに参加するには

開催日時は、ホームページ等で告知します。

・取組主体：サロベツ・エコモーDay実行委員会

・問合せ先（TEL等）：サロベツ湿原センター

TEL:0162-82-3232

・参考URL：<http://sarobetsu.or.jp/ecomoo/>



日本最東端の田んぼの学校

・北海道／美幌町
・開催時期：田植え・稲刈り・
収穫祭及び観察会の4回

親子一緒に農業農村を体験して、多面的機能を学ぶ

体験学習等のイベント内容

・地元の親子を対象に土地改良区、農協、博物館、役場、農業者など多くの機関と個人が協力して農業体験、食の知識の習得、生物多様性の学習や農業施設見学を行い、農業農村の役割を学んでいます。

・「田んぼの学校」は田植え、稲刈り、餅つきまで一連の稲作を体験し、さらに田んぼや用水路等の農業水利施設で博物館の指導の下で生き物調査を行っています。また、地元農産物を使いうどんやナン、バター等を作り、その自ら作った料理を食べる体験も行っています。

・この活動には、地元を中心に幼稚園から小学生まで60人を超える親子が参加しています（コロナ禍前）。かつて子供として参加していたが、成長して主催者の一人として活動を支える立場で参加する者も出ており、地域に根ざした息の長い活動になっています。



取組主体の紹介

取組主体の網走川土地改良区は、美幌町・大空町の面積2,422haの農地に関わる頭首工4か所、幹線4条45.6km、支線69条47.0kmを維持管理しています。また、他にも農業水利施設を含む農業農村の多面的機能を広く知ってもらうために「田んぼの学校」を関係機関等と協力して行っています。

イベントに参加するには

「田んぼの学校」の開催は、地元の広報誌や新聞に掲載しお知らせと募集をしています。

- ・取組主体等：網走川土地改良区
- ・問合せ先（TEL等）：0152-73-2037



日高王国（農林漁業体験）

・北海道／浦河町、様似町、えりも町
・開催時期：通年

見る、遊ぶ、体験する 北海道の新しい教育旅行

体験学習等のイベント内容

・北海道 日高の地で、現代の都会生活ではなかなか体験できない、美しく厳しい自然、生産現場や農林漁家での人とのふれあいなど、教室では学べない人間関係のあり方や社会生活を体験することで、生産現場への理解と食の大切さを学んでいます。

・体験内容は、1グループ3～4名の生徒が、農林漁家に滞在しながら野菜の種植え、収穫、牛馬の世話などの農作業や昆布干しなどを体験し、雄大な自然の中で地域の人たちとふれあうプログラムです。

・平成23年度の開始以来から令和元年度まで、高校生延べ3,156人を受入し、都市部の生徒と地域住民に交流が生まれ、一過性ではなく継続的なつながりや、参加した生徒が道内で就農した事例もあります。



取組主体の紹介

取組主体である「日高王国推進協議会」を構成する浦河町・様似町・えりも町は馬産地として有名ですが、野菜の生産や乳用牛や肉用牛などの畜産、林業、漁業も盛んです。

冬期でも積雪量が少なく、夏が涼しいのでハウス栽培に適した地域で、特産品であるイチゴに加え、花きやアスパラガス、トマトなどの栽培が行われています。

また加工品の製造など、農業経営の多角化に取り組んでいます。

イベントに参加するには

高校生以上の修学旅行等を対象に参加(有料)を募集しています。

・取組主体等：日高王国推進協議会（〒057-8511 北海道
浦河郡浦河町築地1丁目3 番 1 号 浦河町役場内）

・問合せ先（TEL&FAX）：0146-22-2511



希少種を含む数十種類のトンボが飛び交うトンボたちの楽園

体験学習等のイベント内容

・「弘前だんぶり池」は、市街地から5kmほど離れた里山地域にあり、サワガニやカジカなどが生息する赤沢・大畑沢という二本の清流に囲まれた休耕田を手作業で再整備して作られました。

・10枚の田んぼは、それぞれ水深や形態を変化させた池とし、生物多様性の確保に努め、その結果、だんぶり池では、トンボのほかにも、メダカやトウホクサンショウウオ、ゲンジボタルやヘイケボタルなどが見られるほか、ドジョウやカエル類もたくさん生息するため、カワセミ等の鳥類も見ることができるなど、多様な生きものが生息する空間となっています。

・ここでの学びは、教科書だけの学びと違い、やがて大人になっても忘れられない体験となって残ることと思います。



取組主体の紹介

2002年2月に市民・事業者主体の自立的な任意組織「ひろさき環境パートナーシップ21（HEP21）」が設立され、同年3月弘前市との間で「環境パートナーシップ協定」を締結し、以後、市民・事業者・行政のパートナーシップにより、「自然環境の復元」を具体化するため、「弘前だんぶり池」（だんぶり：津軽弁でトンボのこと）づくりを始めました。貴重なトンボ等が残っていた休耕田を弘前市が買い上げ、協定を締結しているHEP21の市民・事業者が中心となって、ボランティアで池のデザインや整備活動等を行い、2003年10月に開所式を開催しました。

イベントに参加するには

所在地	青森県弘前市大字坂元字赤沢1番地
申込方法	「弘前だんぶり池カレンダー」を毎年発行し、だんぶり池における作業活動日を周知していますので、その日であればいつでもどなたでも参加可能です。カレンダーについては、弘前市のホームページをご覧ください。HEP21事務局へお問い合わせ願います。
開催時期	4月～11月上旬
弘前市 HP :	
	http://www.city.hirosaki.aomori.jp/jouhou/keikaku/partner21/partner21.html



田んぼの学校

・岩手県／奥州市
・開催時期：春～秋（各種農作業時期）

岩手大学の学生と地元の方々が、趣向を凝らして自然環境の大切さをお伝えします！

体験学習等のイベント内容

自然環境の大切さや維持管理の重要性を農業体験を通じて理解してもらうために活動しているのが『田んぼの学校』です。

豊かな自然景観と生物多様性が残る内田ため池を中心に、単体ではなく、年間を通じて各種農作業のイベントや環境保全学習会を、地域住民の参加・協力をいただきながら行うことにより、自然環境の大切さのみならず、普段当たり前に使っている機械の有難みなどを知ることができます。

年間のイベントスケジュール（例）

田ぶち	4月17日（水曜日）
代かき	5月12日（日曜日）
田植え	6月2日（日曜日）
草刈り（1）	7月7日（日曜日）
環境保全学習会	8月6日（火曜日）
草刈り（2）	8月6日（火曜日）
草刈り（3）	9月1日（日曜日）
稲刈り	10月6日（日曜日）
稲こき	10月18日（金曜日）
収穫祭	11月23日（土曜日）



取組主体の紹介

田んぼの学校活動場所である胆沢若柳の内田ため池と周辺の小水田は、ほ場整備の際に生態系保全の視点から現況保全され現在に至っています。

農作業を通じて自然環境の大切さなどを学ぶことを目的に、岩手大学のため池保全サークル (Ike-ic) が中心となり、環境学習を行うとともに、地域住民の参加、ご協力をいただきながら昔ながらの農法によるもち米栽培を行っています。

イベントに参加するには

実施時期や実施内容等については以下の窓口までお問合せ下さい。

奥州市農地林務課（農村整備係）
〒023-8501
岩手県奥州市水沢大手町一丁目1番地
Tel：0197-34-1762
Fax：0197-24-1992

